

凡人社店頭イベント

2010年7月3日(土) 14:00~15:30

改訂版

学校生活にほんごワークブック

日本語ぐるりっと編著

- I 「学校生活にほんごワークブック」の紹介
 - 1 どんな教材?
 - 2 指導のめやす

- II 「学校生活にほんごワークブック」の使い方
 - 1 対象の子ども
 - 2 利用の仕方
 - 3 使い方
 - 1) プログラムの中での使い方
プログラム案/使用例
 - 2) 指導目的に合わせて



特定非営利活動法人日本語ぐるりっと 飯島 時子

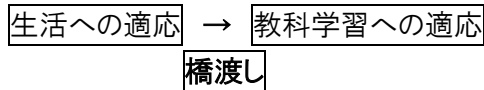
E-mail : nihongo_gururitto@yahoo.co.jp

URL : <http://www.geocities.co.jp/gururitto1998/>

I 改訂版「学校生活にほんごワークブック」の紹介

I 『学校生活 にほんごワークブック』はどんな教材？

1. 生活言語から学習言語への橋渡し



- ① 生活および教科の場面／話題シラバスと構造シラバス
- ② 生活関連だけでなく学習関連のことばも初期の段階から学べるよう考慮

2. 特長

- ① 「にほんごをまなぼう」を参考にした場面・話題に沿って、学校の様子や日本語の構造をイラストやパターン項目で分かりやすく提示。
- ② 既習項目を整理し、語彙や表現を効果的に配列。
- ③ 復習を兼ねた自習用としても最適。(解答付き)
- ④ 小学校6年までの教育漢字を使用。(振り仮名付き)

3. 対象者と目的

日本語学習入門期の主に高学年児童・中学生を対象とし、日本の学校生活・学習に関する基本的な事柄や日本語の仕組みについて気付かせる(状況、語彙・表現によって学校生活や学習場面を紹介)ことを目的としている。

4. 入門期における短期集中指導のための教材

- ① オリエンテーションとして
- ② 適応指導として
- ③ 教科学習への導入として

5. どこで使うか

- ① 学校で
 - ・実際の場面と照らし合わせながら確認
 - ・実際の場面で使用する語彙・表現を体系的に学習
- ② 学校外で(ボランティアによる公共施設や自宅等)
 - ・学校生活／教科学習のための予備知識の獲得

6. カリキュラムの中の位置付け(一例)

期間	指導内容・目的	使用する教材
1日～7日	オリエンテーション(サバイバル)	学校のガイドブック、『にほんごをまなぼう』、『学校生活にほんごワークブック』等
1か月～3か月	生活への適応(文字指導を含む)、教科学習の導入(高学年児童・中学生)	文字指導のための教材、『にほんごをまなぼう』、『にほんごワークブック』等
1年～2年	生活言語の定着、教科学習への本格的な対応(場合によっては受験の指導)	児童・生徒個人の状況に応じ、日本語を補いながら教科書を使用
5年～7年	学習言語の定着、受験のための指導等	教科書、参考書、日本語(国語)学習のための教材、母語による補助教材等

7. <到達目標>をどこに置くか

入門期の短期集中指導(1か月～3か月程度)という位置付けから、オリエンテーションレベルの知識の理解(日本の学校生活における意味の理解や日本語のルール・仕組み、音声と文字の一致への理解等)に重点を置く。発話の潜伏期として、産出的な能力は次の段階で力をいれて育成するものとする。

II 『学校生活 にほんごワークブック』を使った指導のめやす

- 導入** どのような場面で、どのように日本語が使われているかを理解させる。主に学校生活の場面・話題に沿った学習項目を導入する。(例 1)絵カード、文字カード、写真、ビデオ、実物等を使い、模擬および実際の場面でおこなう。(例 2)『にほんごをまなぼう』を児童・生徒と一緒に見ながら臨場感をもたせて読んで聞かせる。
- 練習** 聴いて理解させ、自分で口に出して言わせる。(例)リピート、代入、転換等の練習。
- 確認** 口頭でおこなった練習項目をもう一度確認する。(例)口頭練習の後で、答えを書かせる。(音声と文字の一致を確認させる)
- 応用** 実際の場面あるいはそれに近い状況で練習する。

Ⅱ改訂版「学校生活にほんごワークブック」の使い方

1 対象の子ども

1)子どもの学齢

- ①小学校低学年： からだで状況の中で丸ごと覚えさせる。
- ② // 中学年： // プラス「頭で理解」できるようにする。
- ③ // 高学年：より「頭で理解」できるようにする。しかし、個人差が大きい(低・中学年に近い子、中学生に近い子。)
- ④ 中学生：「頭で理解」への欲求度が強くなるため大人の教材と併用も可。

2)学習での反応

- ①規則性を知っている子
- ②前との関連で理解していく(積み上げ式で理解する)子
- ③オウム返しで繰り返すことによって身につく子

2 利用の仕方

- 1) 例文を読ませることによって場面でしか理解できなかった用法を理解させる。
- 2) 基本的な用語を絵と結びつけて覚えさせる。
- 3) 文字化により理解させる。
- 4) 学習のポイントを掴ませる。
- 5) 理解度を測る。
- 6) 繰り返すことによって定着させる(語彙、動詞の活用など)。
- 7) イラストを拡大コピーして絵カードを作成。
- 8) 「教科学習への橋渡し」(注)として。

注：「教科学習への橋渡し」の要因となるもの

- ・生活場面から学習場面への移行
- ・学習用語や教科に関連した基本的なことから学習
- ・日本語の形式や規則への気づき
- ・非文脈的状况
- ・意味の理解から文字化への作業
- ・漢字への慣れ
- ・自習

3 「にほんごワークブック」の使い方

1) 使い方1・・・「プログラム」の中での使い方

プログラム案

{10時間／週、約三か月(120h)、通級を想定}

<p>初日 2h</p> <p>「自己紹介」の導入・・・使い方1-1</p> <p><留意点></p> <p>前もって一度「通級教室」に来る・原学級で、自分の名前がいえるようにする。できれば学校のガイドブック等を使用。五十音表で発音練習を開始。</p>
<p>二日目～約一週間 4h～10h</p> <p>サバイバル／オリエンテーション</p> <p>教室用語に関する学習／「生活への適応」導入・・・使い方1-2</p> <p><留意点></p> <p>原学級からの通級(できれば、午前中。原学級へ戻り昼食)。</p> <p>学校や社会の基礎的知識、基礎的教室関連用語(数字1～12を含む)の理解。</p> <p>発音指導。ひらがなの導入。</p>
<p>一週間～約二か月間 10h～80h</p> <p>「生活への適応」／「学習への適応」導入・・・使い方1-3</p> <p><留意点></p> <p>「にほんごをまなぼう」の20課まで。ひらがなの練習／カタカナの導入。</p>
<p>三か月目～ 80h～120h</p> <p>「生活への適応」定着／「学習への適応」・・・使い方1-4</p> <p><留意点></p> <p>ひらがなの定着。</p> <p>「にほんごをまなぼう」の21課～33課。カタカナの練習。漢字も少々。教科学習のための基本用語等の導入</p>
<p>以後約一年間</p> <p>日本語や教科の補佐。</p> <p>放課後、週に2～3日通級(連日が可能であればなお良い)。</p> <p>原学級からは放課後通う→その日の学習状況への補佐的な対応が可能。</p>

通級のメリット

- ・学校(原学級)と日本語教室(「JSL」)で、相互補完的に日本語を学習できる。三か月目以降は、日本語の補佐とともに教科の補習にも対応できる。
- ・自主的に学校生活に参加するための‘こころ’の準備期間として、又同じ境遇の仲間同士の息抜きの場として(情報を交換したり母語を使用できるなどの安心感)の心理面での効果。

通級の留意点

担任の先生との連携や学校・地域を含めた周囲の理解・協力が欠かせない。

□使い方1-1

	まなぼう	ワークブック	用意するもの	指導の目標
「自己紹介」	1課「おはよう」 2課「わたしのなまえ」	1課「あいさつ」 2課「 <small>じ こ じょうかい</small> 自己紹介」	絵カード	初日に原学級で自分の名前が言える。 その後、少し長い『自己紹介』ができるようになる。

導入・・・「まなぼう」(絵とともに読み聞かせる)

練習・・・絵カード、「ワークブック」

確認・・・「ワークブック」

□使い方1-2

	まなぼう	ワークブック	用意するもの	指導の目標
「教室用語」	3課「きいてみよう」 4課「あいうえお」	3課「 <small>なまえ</small> もの名前」 4課「 <small>きょうしつようご</small> 教室用語」	絵カード 実物	サバイバル・オリエンテーションとしての知識を習得。 関連語彙の理解。

導入・・・「まなぼう」(絵とともに読み聞かせる)、実物

練習・・・絵カード、「ワークブック」

確認・・・「ワークブック」

□使い方1-3

	まなぼう	ワークブック	用意するもの	指導の目標
「生活」	6課「からだのこと」 12課「じかんわり」	6課「 <small>からだ</small> 体」 12課「 <small>いちにち せいかつ</small> 一日の生活」	絵カード 時間割り カレンダー	身体不調がイえる。 生活のリズムと言語の規則性。 関連語彙／表現の理解。

導入・・・「まなぼう」(絵とともに読み聞かせる)

練習・・・絵カード、「まなぼう」、「ワークブック」

確認・・・「ワークブック」

□使い方1-4

	まなぼう	ワークブック	用意するもの	指導の目標
「教科関連」	23課「けいさんをしよう」	23課「 <small>さんすう</small> 算数」	数字カード 図形カード	教科概念・用語の理解確認。 関連語彙／表現の理解。
「行事」	33課「えんそく」	33課「 <small>えんそく</small> 遠足」	定規／空き箱 絵カード 文字カード 写真／ビデオ	行事の様子を掴ませる。

導入・・・「まなぼう」(絵とともに読み聞かせる)

練習・・・絵カード、「まなぼう」、数字・図形カード、文字カード

確認・・・「ワークブック」

2) 使い方2 : 指導目的に合わせた使い方

□ 使い方2-1 「日本語の構造的な理解を目的とする」

例1) 日本語の形式

- ① 助詞: 「を」: P13(テレビを見ます)、P67(歌を歌う)、「と」: P31(うわぎとぼうし)、P89(うさぎといいます)、「で」: P26(6人で)、P34(病気で学校を休みます)、P54(えんぴつで書く)、「に」: P38(教室は2階にあります)、P42(水曜日の1時間目に理科があります)、P51(学校に行く)、P56(バケツに水を入れる)、「の」: P57(ロベルト君のです)、P58(算数の宿題)、P76(ひらがなの書き方)、等。
- ② 口語表現: P20「痛いです→痛いんです」、P60「宿題をしなくてはいけない→宿題をしなくちいけない」、P61「寄り道しない→寄り道しないでね」、P108「食べた→食べちゃった」、P118「好きではない→好きじゃない」、P124「しますか→するんですか」、
- ③ 「並列」等の表現: P121「チんさんは白組で、山田さんは赤組でです」、P123「歌を歌つたり、劇をしたり」、P127「勉強したら分かります」—P128「勉強しても分りません」
- ④ 擬態語: P95「ぐんぐん」「のろのろ」「ぴよんぴよん」「すらすら」「ぺらぺら」

例2) 日本語の規則性

- ① 動詞の活用: 「ます形」「辞書形」「意向形」「ない形」「て形」「た形」「可能形」「命令形」
- ② 形容詞の語尾変化: イ形容詞(否定形、過去形、副詞的用法)、ナ形容詞(否定形、副詞的用法)
- ③ 「こそあ(ど)」: 「これ／それ／あれ」、「ここ／そこ／あそこ／どこ」

□ 使い方2-2 「基本的な用語の理解と確認」

例1)

		生活用語
あいさつ、呼びかけ、天気	⑧ 身体	⑮ 学級活動
② 自己紹介	⑨ 学校への電話	⑯ クラブ活動
③ 教室用語	⑩ 時計	⑰ 行事
⑤ 置	⑪ カレンダー	⑱ 避難訓練
⑥	⑫ 時間割	
⑦	⑬ 給食	
⑦ 交通	⑭ 掃除	

例2) 学習用語

- | | |
|-------|-------|
| ① 音楽 | ⑥ 理科 |
| ② 図工 | ⑦ 社会科 |
| ③ 体育 | ⑧ テスト |
| ④ 家庭科 | |
| ⑤ 算数 | |

□ 使い方2-3 「意味を理解させ文字化させる」

口頭だけでなく必ず書いてみる。

□ 使い方2-4 「漢字指導の一環として一視覚的な慣れを促がす」

一冊を終了 → 漢字への慣れ